

	第 7 回石川町振興計画審議会
	平成 20 年 9 月 24 日（水） 19:00 から
	石川町商工会 会議室
	出席委員 西川一英会長、渡邊忠栄副会長、相楽一重委員、水野光成委員
	深谷恒夫委員、添田一文委員、斎藤英幸委員、山口一雄委員
	吉田節子委員、添田京子委員、鈴木后世委員
	町出席者 遠藤保健福祉課長、板橋町民生活課長、熊田都市建設課長兼須水道事業所長兼
	簡易水道事業担当課長、瀬谷企画調整課長、添田企画係長、大竹主査
	1 開会
	2 会長あいさつ
西川会長	お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今日も忌憚のない意見を お願いいたします。
	本日の分野は保健・医療・福祉の分野と生活環境の分野ですが、石川町も他町村と同じ ように少子高齢化がどんどん進んでおります。そのような中で保健・医療・福祉の分野で も新たな大きな課題等が出てまいりました。
	まずは、安全・安心で快適なまちという分野であります。先日行われました洞爺湖で のサミットも環境が大きなテーマとなっていました。そのような中で、今回の総合計画と いうのも循環ということが、ものの循環。この点は個々の環境の分野の大きな克服しなけ ればならないところのことというふうに思います。貴重な時間ですから、どうか皆様方に は慎重に審議をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
	3 説明事項
	「Ⅱ 健やかで人にやさしいまち」について説明
	遠藤保健福祉課長、板橋町民生活課長
	質疑応答
深谷委員	基本的にはね良いと思います。それに対して文言のね、解釈なんですけども、どうい うふうに解釈していいのか聞きたい。最初はね、子を持つ働き方を見直すということですね。 子を持つ働き方を見直すということは具体的にどういうことなんですか。現状のやつに何 を見直すことなのか。一体にですね。
遠藤保健福祉課長	この部分につきましては、町が今持っております次世代の育成支援行動計画というもの があります。基本的に児童福祉の分野につきましてはこの行動計画をベースにして、その

	中でのこのような表現になっております。子を持つ親の働き方というのが具体的にどうなのかということですが、仕事が優先で中々子供に目が向かないというような方もいらっしゃるし、子供のことを考えて、収入のことを考えて子供を施設などに預けて働くという方もたくさんいらっしゃいます。このようなことも想定した表現ではあります。
深谷委員	そうするとね、後にも出てくるんだけど、結局その、親たちの仕事そのものを見直すということもあんのかね。それが母親、まあ、最近は共働きが多いような。そういう母親の働き方を見直すっていうのかね。
遠藤保健福祉課長	この部分については、そういったことを促していこうというのが主旨となっています。直接、町が働き方について口を出すということではできません。それぞれの生活もありますし、直接、指示したりするということではできませんので、こういう部分について考えていただきたいという基本的な考え方です。
深谷委員	そうするとね。後から出てきますが、男女共同参画というのとどういう絡みというか、絡んでくんですかね。
	男女共同参画では、とにかく女性のね。社会進出にね、それぞれの適正なやつを発揮しなきゃね、って言ってるんだけど、当然、親の働きを見直してくるということになってくると、その辺の兼ね合いはどう絡んでくるんですかね。これ。
遠藤保健福祉課長	男女共同参画のことを表現しているわけではないので、具体的にどうかというと、答えられないと思っています。色々な状況があるかと思うのですが、お父さんが子育てしているという状況もあるでしょうから、こういう点についてもお父さんもお母さんも関わって子育てをしていくというのもあると思います。男女共同参画も進めなくてはなりません。
深谷委員	それじゃね。読む人によって解釈の仕方が変わってくるんですけども、最初に、家庭の子育て機能が低下しているって言ってるんですね。すると家庭の子育ての機能低下してるってことは具体的に何なのか。ただ、親として果たすべき役割や責任を啓発すると言ってますから、その機能低下というのは、やっぱり親の責任を果たしてないということをしているのか。
遠藤保健福祉課長	そういうことです。
深谷委員	そう解釈していいのかね。
遠藤保健福祉課長	やはり子育てに一番大事なものは、やはり親なんです。
深谷委員	そうなんです。
遠藤保健福祉課長	なかなか一部には理解されていない方もいるのです。その点、社会的にいろいろな支援が設けられており、行政的な支援もあるのですが、第一義的には親の方に頑張っていた

	く必要がある。そういった啓発もやっていく必要があるだろうということです。
深谷委員	それじゃね。これ障がい者の部分なんですけども、障がい者の就労促進するということは、私も大賛成。そうしますと現在、町内の企業で障がい者を受け入れている企業。何社ぐらいあって、総数は何人ぐらい働いてんでしょうかね。
遠藤保健福祉課長	具体的な数字はここでは確認しなければお答えできませんが、説明の中で申し上げましたが、最近については就労支援に力を入れています。須賀川地域の就労支援に関する会議があるのですが、障がいの程度にもよりますが、例えば、知的障がいを持つ方がいるのですが、現実的に今、町内の企業にお願いして、雇用していただいているということもございまして、この場で数字を申し上げられないのは申し訳ありませんが、このような状況があります。
深谷委員	それからね。この医療なんですけれどもね。誰もが安心して暮らせるまちづくりをつくるためには、必要な医療が整っていることも条件です。そのとおりです。そうすると必要な医療というのはどう解釈していいのか。私が一般市民として必要な医療とは何かということですね。私がまず、例えば、家庭にいる家族が病気になったときに、二ヶ月ぐらいは入院させたいという願いがあるわけですね。現実には石川では、それ入院させるところがないということになる。そうなれば遠くに行く。その辺どう。 必要な医療を整えるというのは具体的に考えなのか。私が考えることとまた違っているのか、その辺どうなんですかね。
遠藤保健福祉課長	基本的な考え方をすれば、今、深谷委員が仰ったように、今回の第5次総合計画のアンケートの中にも入院施設が必要だということを挙げている方が多くおり、そういったことも想定するということですが、現実的に町、あるいは石川郡内の町村が協同して病院を建設できるかという、現実的にこれはかなり難しいことになります。ですからどういった方法があるのか、あるいはそれに代わるような方法があるのか、そういったことについて、行政はもちろんですけども、色々な見識を持つ方と話し合いをやっていく必要があると思っています。という考え方です。
深谷委員	そうするとね。各町内にはそれぞれ個人医院がありますね。ああいう個人医院をうまく活用できるような、そういう整備はできないでしょうかね。
遠藤保健福祉課長	このようなことも当然必要だと思います。初期医療というような、一次医療をかかりつけ医などの部分で連携をしていくということは必要なことと考えております。
山口委員	活動的な85歳”めざして”というのは、石川町独自で？ それともなんかこう全国的な表現なのか。
遠藤保健福祉課長	今は、この様なキャッチフレーズで進めて行こうということで掲げております。

山口委員	石川町独自なんですか。
遠藤保健福祉課長	余所で同じキャッチフレーズがあるのかどうかは、わかりませんが。
山口委員	活動的な８５歳というのはどういったことなんですか。
遠藤保健福祉課長	活動的な８５歳というのは、病気をしても良いから動きましようということです。ちょっとぐらい病気をするのは当たり前でしょ、ということで、以前は健康的な８５歳ということという部分であったのですが、健康でなくてもいいじゃないか、８５歳になれば病気の一つや二つみんな持っているわけですし、それでも元気に活動できるような８５歳を目指していきましょう、というのが狙いです。
山口委員	それじゃ、８５歳というのはそんなに根拠はなくて、偶然、８５歳ぐらいが適当だということなのですね。
遠藤保健福祉課長	年をとっても活動的な高齢者でいまいしょうというのが目標です。
山口委員	振興計画というのは、石川町独自でやる振興計画としてみていいのかな。
	これを見てると、どこの町でも通用するような。もしかしたらこれを隣町に持っていても、たぶん通用するような内容じゃないかと。
	例えば石川町がこういう方向性でやるんだっていうのがあれば、すごく、石川町はこういうまちづくりをやっているんだっていう。これをおそらく古殿町に持っていても、結構、通用するように思うような気がして。
	実は６、７年前に石川町の福祉計画策定委員というのに僕も。やっぱり同じような内容で、進めていったんですけども、やっぱりできたものだったんですけども、やっぱり、こういう内容だと、その具体的に何ができかっていると、ほとんど見えなくて、もしかしたら、１０年後も同じ形になるのかな。もちろん、独自にいろんなものを行っているということもあるんでしょうけど、もしかして、もう少し何か、石川町はこういう地域福祉をやる方向性を持っていますっていうようなことがあれば、なんかこう、最初に言っていたければ、良いかなって感じがしますけれども。
遠藤保健福祉課長	具体的に石川町だけのものが何かというと、地域福祉ネットワークというのは石川独自のものですから。
山口委員	それは具体的にどんなものですか。
遠藤保健福祉課長	これはまだ始まったばかりで、それぞれ地区ごとに特色を出しながら活動をしようということで、それぞれが一生懸命になって考えているところです。これは余所ではやっていない石川町独自のものです。
山口委員	そういうのを積極的に前に出していいただければ、石川町もそういう事業があるんだって

	いうことで。
遠藤保健福祉課長	文章で追っていくとなかなか特徴が見えにくいと思いますが、個々の活動を見ていただければ、余所でやっていない事業にも積極的に取り組んでいるものがあります。
山口委員	ああ、あるんだ。
遠藤保健福祉課長	お年寄りのサロンづくりなどにも積極的に取り組んでいます。町内に20カ所以上できましたから。そういった様々な活動を進めておりますので、そういったものを進めてまいりたいと思っております。
添田京子委員	子育て支援なんですけれども、小学校低学年の児童を放課後の時間に預かっていただけるのは大変ありがたいことだと思っております。以前ですと、児童クラブは4時45分までだったんですね。それで普通、勤務は大概が5時までっていうことで、パートとかそういうところに勤めなくちゃいけないんだっていう苦情が良く耳にしたんですけれども、現在では5時半まで延長されましたので、すごく通常勤務もできるようになったということだということで、良い声を聞くんですね。
鈴木委員	健康づくり推進協議会をやっておりまして、地域包括支援センターの保健婦さんたちの活動とか、そういう、ずうっと動きを見ているので文言としてははっきりとここでは出ていないんですが、今まで行ってきた健やかで健康なまちづくりについては、よその町村より、結構、良い活動はしてもらってはいると思います。
	ただ問題は、救急医療とそれからやっぱり入院施設がないっていうのが、とてもネックだと思うんですね。で、あの、この間、ちょっとあの、棚倉と深谷さんも一緒だったんですけれども、あの、石川町の、まあ、5町村、大体含めてだったんですが、石川地方介護支援専門員連絡協議会っていうのの研修会に参加しました。で、あの救急蘇生とか、そういうのの境目が5分ということを勉強して、やっぱり5分で何ができるのかなって言うことで、救急車で搬送しなくても何とかなるんだっていうのを勉強して、やっぱりこれでは、石川に病院がないから住民が、あの、何もしないのではなくて、あの、救急医療とか、一番先にすべきことを、あの、もしかしたら日本でいちばん町民が知っているんだっていうような町村にしたいなっていうような気がしました。
	それで、郡山とかでも行われているんですけれども、今、歯科医師会でも各医院に是非、AEDを設置したいいうことを、今、計画しています。で、今回、総会で話し合うことになっていますけれども、やっぱり、あの、AEDのマップとかそんなのも石川でやっぱり作ってもらって、温泉も結構、多いんですね。
	それから、会社とかそういう人が倒れたときの処置を一番勉強している町民になれるような、地域の力があるような施策を何かしてつたらいと思うんでよね。で、無いからじゃなくて、知っているんだけど、手を出せないのではなくて、もしかしたら勉強会とかをいっぱいやってAEDとかそういうのの講習、それと救急処置はこんな時はこうしたら良いっていう、まあ、所謂、昔、人が倒れた時、頭をすればいいか、足を上にすればいいかっていうようなそういう動かさないほうがいいとかそういう基本的な救急処置みたいな感

	じの、よく勉強する町民になれたらいいと思うんですね。そのために、今もう石川では高齢者のサロンもあるし、公民館活動も核を中心としてできているので、そういうところにお医者さんとか、よく知っている看護婦さんとか、消防署の方とか、そういう人を招いて、是非、講習会を多めにしていただいと、いざという時の処置ができて、もう少し救命維持とか、搬送しなくても何とかできるかなって言うようなところの医療になれるんじゃないかなってのは。 それからもうひとつは、石川独自っていうことに、前から介護の時も言ってたんですけど、渡辺さんもいらっしゃいますが、石川って温泉もあちこちに点在しているので、この前、東京で温泉の、温泉水を宅配してくださっているっていう町（※注1）ありましたよね。で、そこは後期高齢者医療も無料とかっていうので、新聞、テレビで報道されたんですけども、石川も温泉があるので、それも何か所もあるので、是非、これからの予防介護とかそういうのに温泉を少し利用するような方向の施策を一項目、やっぱり入れていただくと、良いなと思います。 （※注1：東京都日の出町）
遠藤保健福祉課長	今、鈴木委員さんからお話がありました救急法の研修、それからAEDの導入ということなんですが、これについては議会等でもかなり質問等がありまして。実は昨年、このAED関係の救急法をやるっていうことで町の方でも講習を実施しております。それからAEDの機械の設置についても、さくら荘さんと小中学校、それから今年は町の社会福祉協議会のほうにも設置するということで予算も計上しておりますし、今年も講習会を既に実施しております。今回は町の議員さんにも是非お願いしたいということで、議員さんかなり出てくられて、一般の方に交じって講習会を実施いたしました。そういったことで、今、お話がありましたように、大変素晴らしいご提言だと思います。ありがとうございました。 それから、温泉を利用した介護予防ということなんですが、実際、今、町の中で地域ケア会議いうのがあるんですね。その中で、地域福祉ネットワークとかサロンとかが出てきたんですが、実は温泉を利用した介護予防というのもその中にあげたんです。何人かのメンバーで検討していただくということで進めていますが、まだ、結論が出ていない部分なんです。我々も是非、進めていきたいなということで考えてはおりますので、なんとか良い方法をできるように、進めていきたいと思っております。
鈴木委員	石川の場合は、結構、歯科医院が多いんですね。フレンチシェフが言った言葉で、最近聞いた言葉なんですけれども、口は最後の調理場である。というような言葉をいったんですけれども、結局、最後までなるべく口から栄養を摂るっていう方向で付き合えると、病院に行って最期を看取るっていう形も仕方がないのかもしれないんですけども、家で看取る時の臨み方としては口から最後まで何とか食べられるっていうような方向に食育の方とか、口腔内のそういうところのケアっていうようなところに力を入れていただくと、もう少し、医療の患者さんっていうんですか、そういうものが減って、自宅でもうちょっと療養できるようなシステムができるのかなっていうふうに思います。
山口委員	地域福祉の地域ということなんですけど、僕も25年前に地域福祉っていう手伝いをしてきたんですけど、ずっと、福祉は学園にある、更生園にある、ボランティアは更生園。

	で、地域には考えている人がいるんですけど、あらゆる行政を含めて福祉をやるんだ
	ったら更生園的なそういうのがずっと続いてきた。
	で、地域福祉がここ１０年位言われて、行政的にそういうものを町のほうに移行してき
	て、初めて町のほうが声掛けをしてきたけど、未だ、町民の目は福祉は施設のほうに向い
	ているんですよ。それをどうやって、果たして地域のほうに向けさせるか。これが事業の
	中に具体的に何か、あればいいから教えてください。地域福祉の…
遠藤保健福祉課長	先程、申しました地域福祉ネットワークあたりは、そういったものなのかなと思ってお
	ります。今、各地区でサロンもやっています、特に沢田地区に多いんですよね。ここに
	いる委員さんもボランティアで一生懸命やっただいていてるところなんですけれども、
	そういった、皆さんの地道な普段からの支え合いによって、だんだん意識が変わってくる
	のかなというように思っております。今までなかなかそういったことっていうのはなかつ
	たものですから、やはり今、山口委員さんが仰ったように福祉というと施設というイメー
	ジを持っていらっしゃる方は非常に多いとは思うんですけど、今、これからは皆さん
	の日頃から目に見えない活動が行われて行けば、少しずつ意識も変わっていくのかなと思
	っております。そういったように我々も努力していかなければならないと思っております。
山口委員	自立計画サポート事業とか地域支援、在宅支援事業とか、かなり事業があるんですけれ
	ども、なんか具体的に何か町でやることはないんですか。
遠藤保健福祉課長	具体的には、障がい者の自立支援法に基づくサービスメニューなんです。町独自に行え
	るのは、この中で地域計画支援事業というのがある程度、町の自由が利く事業になるので
	すが、この中でここに記載されていなりいろいろな事業ができますので、これは活用した
	いなどとは思っています。
山口委員	たとえば、今、僕たちがやっている地域の週に一回、活動している事業もこの中に入っ
	ているんですよね。
遠藤保健福祉課長	うまく工夫すれば対応できる部分もあるかと思えます。
山口委員	それを何とか行政がバックアップしていけるような体制がね、できるといいと思うんで
	すけれど、行政と我々民間が上手に付き合っていけるこういう事業もうまくいけるのかな
	と思う。地域のほうに目を向けて、地域の民間の我々のほうに目を向けていただければ、
	かなり活動がうまくいくと思うんですが、いかがでしょうか。
遠藤保健福祉課長	確かに何でもかんでも行政がやるんじゃないくて、お願いできる部分についてはいろんな
	方をお願いしてやっていくっていうのが大事になってくるかなと思っています。
山口委員	協働っていう形が大きく出なければならない。
斎藤委員	少子高齢化ということで全国的に騒がれていますけれども、理想的な、今の18,000人を

	維持していく中で高齢化はものすごく進んでいると思うんですね。かなり人数が減っていると思うんですけども、理想的な出生数はどのくらいと考えればいいのか。
遠藤保健福祉課長	できれば200人以上になればというようには考えています。
斎藤委員	高齢化のほうもあるんですけども、病院のことがありますけれども、病院については誰しものが必要だっていうことは分かっているんですけども、これは不可能ですか。
遠藤保健福祉課長	現実的に考えると、非常に難しいというようにしか答えることができないと思うんです。
西川会長	検討した結果、難しいということなんですか。
遠藤保健福祉課長	例えばどのような方法があるかというのだと思うんですが、方法はいくつかあるかと思うんですが、例えば、町が作りますということや、町が無理だったらが、石川郡内の町村で共同して経営するというようなこと、云わば公立病院ですね。あとは、どこかの病院を誘致する。など、色々な方法があるかと思いますが、そういった体制でこれから病院運営をできるかという、まず町立病院というのは今の財政状況を考えれば無理だというのが皆さん理解できると思うんですが、例えば、石川管内で共同で経営したらどうかという話もあるかと思うのですが、それにしてもそれぞれの町村の思惑が違う訳です。平田村にすれば地元到医院を持っている。それから玉川村にすれば公立岩瀬病院組合に加入している。残りの古殿町、浅川町、石川町でできるかという財源的にも無理だし、色々考えてみますと難しい。必要性は非常に我々もわかりますし、なんとかしなくちゃならないというように思っているんですけど。
西川会長	それでもわからないことはないんですが、例えば、田畑を持っていたとしても農業収入が少ない、ぺんぺん草を生やしていて、自分は白河の方に朝早くから通っている。そして、子供は統合小学校になってしまって、5kmも10km離れている学校にひとりでマイクロバスで送られていく、そして、親父が入院するところも町内にないから、郡山か白河に行く。自分は遠くに通って勤めている。なんで石川に居る必要があるの、っていうところに結びつく可能性もありますね。これは石川だけじゃなくて、他のところもそうなんでしょうけれども、できるだけこの辺は、やっぱりこれが、政治であり行政であると思うんですね。万策尽きるまでは、これは努力するべきだし、ですから私も、計画の中には、検討していきます。という表現が書いてある部分がありますが、どのような方法で検討し、どのような組織をもってこれを検討するのか。その辺はどうなんでしょうか。適正な医療体制の整備ということなんですが、これをしないで、早急に不可能であるという結論をつけることができるのでしょうか。
遠藤保健福祉課長	結論をお出しした訳ではないのですが。現状から判断して難しいということを申し上げましたが、当然、色々な方法を考えなくてはならないと認識しています。医療機関についてはみなさんが求めているということですから、それに対して、町はどんな方法を執れば実現できるかということについては、当然、考えなければならないと思いますし、では、

	具体的にどうするのかということになれば、この中では医療機関の関係者もいらっしゃると思いますが、このあたりが一番身近なところに住んでいる医師会の会員の方々、この方々とは定期的な話し合いなども持っていますので、そういった場において、あるいは、県立病院そういった医療関係者の方々と連絡を密にしていこう必要があると考えています。これは触れないわけにはいかないものなので。
深谷委員	結局ね。町のね。人口の動態ね。動きね。この辺の鍵、握ってんのはね。やっぱり保健福祉だと思うんです。やっぱり保健福祉が整備されていけば、じゃ石川町で住んでみようと、いう気持ちになるんです。現状の段階では、住んでみたくないと、いうのが多いですね。で、やっぱり、私の周辺、ずらっと、家を建てるなら西白河だと。向こうに行くわけですね。なぜかという、やっぱり、都会に行けば、できる自分の生活が、満喫できる条件がそろっていると、ということになれば、当然、こう、足がそっちに向くわけですから。従って、その、計画を立てる前には、保健福祉が、福祉行政がね。それがやっぱり、力を入れてもらえば、かなり違ってくるんじゃないでしょうかね。だから、石川町に来なさい、来なさいって言ったって、人は集まらないよね。やっぱり、福祉行政がきちんとれば、じゃあ、行ってみようか。そういうところがどうかなって気がすんですけどね。 それから、関係してね。そのお、特老がね。特老。特老もね、現在、石川郡にはいっぱいあるんだね。これは福祉会つちゅういうことになるんでしょうけれどもね。ええ。特老の定員がほんとに僅かわずかなんです。待機者が圧倒的に多いんです。出来ればね、石川郡内の。こぞってね。その定員の増やし方。確かに国の行政で決まってはいるんですね。国の行政、待ってたんでは、やっぱ、待機者は入らずして死んでいくわけですから。そうじゃなくて、待機者をいくらかでも、やっぱりね、減らすような方向で、石川郡内の町村役場で集まって、そういう方向に動くような施策はできないもんじゃないかな。
遠藤保健福祉課長	今、一番問題なのは、財政危機ですよ。で、今現在も特老に関して、石川町は毎年、償還金だけで5,000万円以上出している状況です。償還の最終年度が平成35年ですから、まだまだ、払い続けていくわけですが、もちろん元金は減っていきますが。他もみんな状況は同じなんです。石川町で出している分、他もそれなりの財政規模に応じて出しているわけなんです。例えば、今、石川郡内の特別養護老人ホームは5つあります。定員はいずれも50床です。全部で250床位になります。それではどのくらいの待機者がいるかというと、石川町だけでも70人位の待機者がいます。ですから、ひとつ50のベッドがあったとしても、石川町だけでも間に合わない状況にあるわけです。 なんとかこのような状況を解消できないかということで、昨年、このような検討をやったんです。たまたま、県のほうに枠があるので、それを使って確保できないかということでやったんですが、現在の管内の施設は場所が悪く、いずれもスペース的に非常に狭いことにあるのです。 枠があっても、現実的には増設ができないんです。それではまったく新しく造るかという、これはちょっとできませんので、最も手っ取り早いと考えるのは、今ある施設に増設するというのが一番現実的だと思います。 現実にはひとつの施設として採算が取れるケースというのは、70から80なんです。ところが石川郡の場合はみんな50床ですから、将来、このままだとすれば、施設の運営そのもの

	が厳しくなるんじゃないかということで、今、言われています。
	いずれは、それぞれの施設とも、規模の拡大というか増設というのが必要になってくると思うんですが、今のところこれ以上、財政負担できるかという問題があるんです。石川福祉会が自分でお金を出して、自分で借金して、増設できるというのであれば、何の問題もないんですが、このようなときには、当然、まず関係町村に負担を要請する。各町村だってそれだけの負担をできる体力があるかといったら、それは無いんですよ。去年の件も最終的にはお金の問題でなくなってしまった経過があります。ただ、いつまでもこの状況を続けていくわけにはいかないと思ってもいますし、いずれは当然、石川町だけではできませんので、それこそ石川福祉会ですから、石川郡で是非、作っていかなくちゃならない。ただ問題は、石川郡内でもそれぞれ思惑が違うというのが、非常にあります。色々な福祉関係の会議がありまして管内とも話をするんですけども。
深谷委員	各町村のね。各町村ね。やっぱり50っていう数は少ないかわかんないですね。今んとこ。じゃ、それを少しでも高めようということで、定期的なね。そういうの、相談て言うんですか、集まりと言いますか、そういうのは持ってんですか、やっぱり。
遠藤保健福祉課長	定期的といいますか、年に4回、担当課長が集まって話し合いをしていますので・・・
深谷委員	集まってはいるんですね。
遠藤保健福祉課長	年に4回、集まっています。
深谷委員	じゃあ、集まって話をしても堂々巡りと・・・ということですね。
山口委員	地域福祉を進める中で、老人ホームの定員を増やせ、増やせという議論をするのも、ちょっと、不思議な感じがするんですけども。先程からの、地域福祉の話が老人ホームの定員を増やせというのは、なんかこう、方向性がないような気がするんですけどもどうなんですか。
遠藤保健福祉課長	ただ、今、流れとすれば特別養護老人ホームの施設ではなくて、在宅っていう流れは、そうなんです。なぜかというとお金ですよ。給付費を減らしたいというような基本的な考えがあると思うんですけども、だから施設よりは在宅でという流れで行っているんですが、現実的に家で看れない人はどうするのという問題があると思うんです。
	今、70人の待機者が石川町ではいるという話をしましたが、その70人を一人ひとり、みんなチェックしたら本当に必要かっていうことになる人も中に入ると思うんですよ。この人だったら出来るんじゃないかっていう人もいると思うんです。ただ、家族の中で、もう無理だという判断をしているものはどうしようのないですからね。
相楽委員	私も民生員という立場で、3年ほど前から地域福祉ネットワークに携わっているんですが、最終的には、この問題を解決しない限りにはうまくいかないんですよ。それぞれに子育て支援とか福祉関係の支援とか、あるいは災害の支援体制とか、みんな最終的には地域の

	人のつながりに行きつくんですよ。前回、茂木町に研修に行ってきましたけれど、結局はあの地域では地域おこしってことで、非常に地域のつながりが石川よりも強いんじゃないかと思うんですね。
	そのために高齢者も結構、元気になるとか、85歳で元気になるとかありますけれども、やっぱり最終的にはそういう問題に行きつくんで、そういうものをもっと積極的に、打ち出せないかと思うんですがいかがですか。
	これは、福祉ばかりじゃなくて行政関係も、広く見解を打ち出した方にもかかわっていると思うんですよ。
	で、ボランティアセンターの設置ってあるんですけども、なんか石川の場合には、形式的な面のように感じられるんですけどもね。この辺をもっと、徹底して議論させて、その辺を窓口にしてコンサル的なそういうふうな、地域の地域力の増進というか、そういうものを産む機会のようなものはできないんでしょうか。
遠藤保健福祉課長	ボランティアセンターについては、先程、話しましたように今のところ形だけという状況ですから、あとはこれからの活動が大切だと思うんですよ。
瀬谷企画調整課長	今、相楽さんのほうから指摘あったところなんですけれども、今回のプロジェクトの中では「ORAHOのまちづくりプロジェクト」というものが、作業を今やっているんですけども、各…、今、公民館の地域の中で、地域づくり。この部分をどうやっていけばいいのかっていう、この、地域自治へのあり方を追求しようというプロジェクトを立ち上げています。その各地区に地域自治の仕組みを作って、その中では、福祉の問題とか、地域の教育の問題とか、そういったものを包含されてくるような場所をどういうふうに作っていけばいいのか、っていうことを、それは条例をつくるということも含めて、今、そのプロジェクトを進めているということです。
添田一文委員	国民健康保険の年間平均、一般被保険者数が年々減っていて、それに対して医療費が年々上がっているっていう現状のようなんですけれども、これは町民一人ひとりの健康状態が良くないというか、病気が増えて、病気になる人が多いので、生活習慣病とか、そういうことが原因で被保険者数が減っているっていうことがあるかと思うんですけども、病気になる人が増えているので、このように医療費が上がっているという現状なんでしょうか。
板橋町民生活課長	今のお話のようなこともあるのかとは思いますが、一般的には医療費が高額になっていることがあげられています。例えば3月に関東地区で治療を受けた方の医療費が一人で600万円の請求があったという現状があります。
	その治療内容についてはレセプトなどを確認する必要がありますが。このように一人あたりの医療単価がものすごく上がってきているということがいえると思います。
添田一文委員	生活習慣病の予防の充実で健康的な日常生活を送ることができるように、保健指導の充実を図りますということで、やはり、最終的に家庭での家族間で家族の健康を気遣うというふうな、そういうことが一番重要であるし、地域でも行政区から組。組っていうのは地域の高齢者の方とか病気がちの方とかに気配りをするということが重要ではないかなとい

	うふうに思っております。あとは、私の家でも祖母が他界しましたが、87歳で他界したんですけれども、80歳の時に脳内出血で意識不明になり、手術は不可能というか、出血した場所が悪く、ただ寝ているだけで話すこともできず、寝たきりの生活を7年間したということで、その間、私の父も他界してしまっていて、そのような状況で医療費負担というものが大変だったというのがありました。
	先程、鈴木委員さんからありました口から流動食でもいいから摂るということで、口から物を入れる流動食を選択するか、あるいはそのままにして自然に看取っていくのかって問題が父親の場合はありました。最終的に流動食を入れるということを判断しましたが、やはり7年間の介護生活というのがありました。経済的負担も非常に大きかったというように思っています。
	その結果、母親を看取することもできず、先に癌に罹って亡くなっていったという現実がありました。医療問題に関しましては。祖母と父親を亡くして、お金の問題と精神的な問題ですごく大変な経験をしたというのがありました。
	自分も26歳で糖尿病を発症しまして、発症した時には何ということだ、と非常に残念に思ったんですけれども、なってしまったものはしょうがないということで、一病息災という言葉も受けたりして、薬に頼らないで食事療法でもっていけるような、医療費を使わない方法で考えていきたいなということを考えております。
山口委員	数値目標のケアマネジメント従事者の養成があるんですけど、障がい者の支援で、10年ほど前、県の指導で、精神障がい者たちのことを…その時、町の保健婦さんたちが頑張っておられて…ただ残念なことは、身体障がいをもった方とか、発達障がいを持った方を抱えている人もいますよね。それで、このケアマネジメントの方も障がい者全体の人的勘案しなくちゃならないんですけど、残念ながら、計画もみんな含めて、精神障がい者の方を福祉中心の計画だったりするんですよね。だって、できればケアマネジメントというのは他の障がい者に関わり合いがあるような方、これは民間も入るんですか。それとももう町の中の職員の方が入るんでしょうけれど。
遠藤保健福祉課長	今のところは、町の職員しか決定していません。今のところはですね。これからについては民間の方にも広げていく必要があるのかなとは思っています。
山口委員	そういう意味では各ジャンルに分けて、身体障がい者の方とか障がい者たちの方面に、ちょっと目が行かない点が多いと思うんですが、ちょっと、こう、我々には感じているんですけども。出来れば、いろんな障がいと関わり合うような人も是非、こちらの委員に 부탁드립니다。良いかと思っているんですけど。まあ、全国的にこういう傾向があるみたいですけど、石川町も是非、いろんな障がいを持った方たちと関わり合えるケアマネジャーの養成をお願いしたいと思います。何人ぐらい予定されているんですか。
遠藤保健福祉課長	今のところは二人を考えています。
深谷委員	それではね、ひとつだけ良いですか。ボランティアの件でね、要望したいんですが。現在、私、ボランティアに入っているんですけども、で、石川の場合には、団体で登

	録なんですね。
	私は個人でね、福祉会で登録しているんですね。研修とか何かをやるんだけどね、一向に、是非、お願いしますというのがないのね。
	考えてみるとね、人材の育成には力を入れているんだけど、それを利用するね、その大半がそれでないじゃないかと。受け身の態勢で、もしそういう方がいればね、お願いしますよ、とそういうのがね、あってもね、いいんじゃないかという気がするんですよ。
	じゃなくて、やっぱりあの社協あたりもね、そういう開拓をしながら、身近でもっているね、人材を適材適所に、配置できるような、そういう充実を目指してもいいんじゃないかという気がするんですけどもね。そういう提案をお願いしたいと思います。
西川会長	国の方針とかで、お金がないから地域福祉あるいは在宅福祉、在宅介護、在宅看護そして在宅での看取り、こういうふうな方向なんですけど、相当この辺は検討していかなければ、それこそ活字だけは整っているけれども、文章だけは整っているけれども、内容が全然ないっていう、そういうふうになるような気がしましてね。
	ですから、近くに来れる、近くに帰るといふ。石川では低いんですけど、近くに帰るといふことは。
	一方、活動的な85歳ということが書かれていますが、活動的でない85歳だっているわけですから、そういう方々は非常に偏見で、差別的で人権上の…、二律背反して人権尊重の推進、差別偏見のない一人ひとりの人権、そういうものを認める。寝込んでいてもその方の人権を認められるようなものを認める石川町でなければならぬ。これをすべて経済的なものだけで、押し量って政策を決めてしまったんでは、非常に生き辛いことになってしまっているんじゃないかなって気がするんですね。
	それと同時に、将来の在宅介護、在宅看護そして看取りに向けて、鋭意、検討機関を作りましてね、そして、知恵を集めてやっていただきたい気がしますね。この医療の問題につきましても、検討していきますというんですから、どういう組織でどういう検討会をつくるのか、どういう方向にいくのか、その辺のことをとにかく持ってきていただきたいなと思います。
水野委員	これからの高齢化社会はどうなるのかというのは、ある程度予測できると思いますが、その中で、行政というのはどういう道を行くんだというスタンスがないと、綺麗事は言っても、実はそこが肝心なんだ。そこを金がないから、というだけでは済まないと思うんだよね。そこをどう打開していくのかというのをある程度、想定した中でこの全体に、10年計画というところまで出来上がったものをスタンスとしては必要なんじゃないのかと思います。
瀬谷企画調整課長	福祉と直接かかわらない問題もありますけれど、いま、高齢者の直売所とか、生産活動をするっていう、これも元気な高齢者ができるだけ生産活動にかかわって、お金を生み出すっていうことも、そこがやっぱり非常に重要なストーリーになってくるんじゃないかって思うんですけども。
	働けないなっていう人もいるだろうし、病気の人もあるし、そのところは元気な高齢者については、やっぱり働いて生産活動には関わってほしいという、そこをどうし

	ていくのかっていうのはこれから農業の面で今、別な仕組みが別なプロジェクトで実現しようとしているんですけども、そこも他の成功事例を見ると、そこが1点だけしか報告がないので、上勝町みたいに80歳のばあちゃんが1,000万円も稼いでいるっていう、そこしか見えてこないですけども、やっぱりそこに関係するプランなんかも併せて考えていかなければならないと思うんですけども。
水野委員	上勝町の仕掛け人の方の講演会を聞いたことがあるんですけども、システムをどうしていかってということが大切で、すべての人が受けられるのは情報だけであって、その仕事を受けられるのは早いもの順、端末に早く打ち込んだ人がその権利がある、だからボケっとしていられない。そういう手挙げ方式でやっているんですね。
	そういう平等な扱いでないところが良かったと思います。平等にやっていたらこのシステムはうまくいかなかったんじゃないんでしょうか。
瀬谷企画調整課長	情報を多く出していくということですね。
水野委員	あくまでも競争なので、お年寄りもボケっとしていられないということでした。
吉田委員	総合計画はこのような指針というか、方針でできているので、私たちにはよく理解できないところがいっぱいあるので、できることならば石川町にしかできないものを入れて、石川町に住みたくなるのにはどうしたらいいのか、ということで防災とかの部分で、地震のときにはこういうところがありますよとか、逃げる場所がありますよとか、というようなネットワークとか、先程の福祉ネットワークとかがあって、高齢化というと石川町ではもう完全に高齢化になっちゃっていると思うので、そういうメインになるような、人と人とのつながりもっていけるような、そして、石川の人たちってボランティアっていうと、積極的に参加している人が多いと思います。このような点を利用して、活用していただきたいと思います。
鈴木委員	今の県立医大の学長さんが石川町出身の菊池先生なので、是非、石川町の窮状というか現状を知っていただいて、会津の方などに行っている研修制度ということで派遣をしていますよね。若い人たちが地域医療に溶け込んでこっちになるべく定住してみたり、住んだりなんかして、住んでくれるようなところに研修に行くようなシステムを県立医大でもやってくださっているの、医学部の定員も増やしていることだし、あとは石川町でもお医者さんになられている方が結構いるんですね、きっと、だから、そういう方を引っ張るといっては何ですが、そういう方が石川の医療機関が無いんだよっていうことを知っていただいて、帰ってきてくださるような環境というか、そういう支援みたいなものをしてほしいんじゃないかな、と思いますけど。結構、よそに行っていらっしゃる方も結構いますし。
	以前の石川町は、入院できる場所もいっぱいあったし、耳鼻科もあったし、眼科もその頃はありましたし、ホントに結構ちゃんとそろっていたんですね。ところがみんなどこかに行ってしまったっていうのは、やっぱり、行ってしまう段階で町が何にも支援も要望もしなかったっていうのがすごくあると思うんですね。だから、現実には、お医者さんに

[illegible]

	もう1点は、町営住宅の件なんですが、民生員の話なんですが、町営住宅に申し込んでも、
	申し込みして待っている人が20人くらいいるということで、この入居の条件っていうんで
	すか、これは簡単には入れるんですか。今申し込んでいるという方も困っている方なんで
	すよ。生活保護を受けるほどではないんですが、できればなるべく安い住宅に入りたいと
	うことで、とりあえず民間の会社に入っているんですが、そういう人を優先的に入れたり
	ということとはできないのかね。
熊田都市建設課長兼水道事業課長	生活保護を受けていれば優先的に選定するという方法はあると思います。
	現在、申し込みされている方は母子家庭と高齢者の方が多いんですね。なかなか現在も退
	去する方が少ないんですね。そのため入れ替えができなくて、年に数件程度有ればいい方
	で、早く入居させてほしいという要望はあるんですが、現状としては空きがなくて足り
	ないという状況です。色々な条件によっては優先しているという部分もございます。
相楽委員	新しく造るなんていうことは全然計画にないのね。
熊田都市建設課長兼水道事業課長	今回の計画では何棟かは新築の計画を立てているところです。
相楽委員	もうひとつが水道の件ですが、沢田と山橋の簡易水道を上水道に統合するということな
	んですけれども、加入率は減っているんです。給水量も減っているんですね。そういった
	のは工業用水が増えただけで、後はみんなマイナスなんですね。だから今出ダムも中止に
	なったと思うんですけれども、この沢田と山橋の簡易水道事業を始めまして、一応、配管
	はしたんだけど給水してないんでしょ？
熊田都市建設課長兼水道事業課長	沢田は約95%の加入率になっています。
相楽委員	加入率は高くても給水してないでしょ。全く使ってないでしょ。
熊田都市建設課長兼水道事業課長	現在、沢田は1日300 t の給水をしています。
相楽委員	こういうのは上水道のほうが経済的なんですか。
熊田都市建設課長兼水道事業課長	上水道というのは町の税金を原則として使えないということで、皆さんの
	水道料金によって運営しています。簡易水道っていうのは不足する部分については一般財
	源で対応するということになっています。現在は職員の統合を行いましたので、事業につ
	いても統合を図り、沢田の簡易水道に関しましては上水道の延長という形で給水量がなん
	とか間に合うという計画になっています。簡易水道は機械設備や電気設備が中心になって
	いますので14～15年使用すれば、更新の時期になってきますので、このあたりの投資関係
	も含めて、検討した中で効率的な方法を検討しなければならないということで、総合計画
	に記載しているということになります。
	いずれにしても、統合しますと簡易水道で行った起債についても、その元金と利息につ
	いても水道料金で支払わなければならなくなりますが、その点について、昨年作った計画

	では簡易水道での起債については一般会計から補てんするということで計画はしてあります。
相楽委員	どのくらいはね返るの。
熊田都市建設課長兼水道事業課長	はね返えざるを得ない部分もあるのですが、現在の計画では、現行の料金よりも15%の値上げと考えています。25年での統合を計画しているのですが、25年からは現在の浄水場の更新を予定しており、用水供給事業も立ち上げる予定になっていますので、そこについても費用がかかってきますので、25年で現行の慮金よりも8%の値上げ、平成31年からは新たな浄水場から供給する計画になっていますので、その時点で7%、全体で15%というのが財政的な計画になっています。
鈴木委員	路線バスの運行が少なくなってますよね。私が石川町に来た時に、一番最初にすごいところだなと思ったのが何かというと、タクシーが年中、走っていたんですね。それで手を上げるとすぐにタクシーが止まってくれて。私、出身が栃木市なんですけれども、タクシーは呼ばないと来てくれなくて、呼んだときに、お迎料がかかるようなところなんですね。夜とかもなかなか来てくれなかったり、駅前しかなかったりするんですけれども。石川ってタクシーが2社運行していますけれども、医療機関では患者さんをバスであちこちから連れてきてくれるんですけれども、そういうのだけでなく、高齢者とか子育て中のお母さんとか、今後、学校が統廃合になったときにおじいちゃんやおばあちゃんでも送迎にどうしても行かなくっちゃならない時とかっていうふうなのがでてるかもしれませんよね。そういう時に初乗り券っていうんじゃないんですけれども、そういうようなサービスがあった良いと思うのと。そうでなければタクシー会社さんと町で相談してバス路線だけに限らず、少し小型であちこち運行してくれるようなそういうシステムみたいなものがあると、もう少し町の中を人が行き交うし、交通機関の方も栄えるし、子育て期間中のお母さんも助かるし、高齢者の方もあちこちに行きやすくなるっていうのがあるんじゃないかなと思うんですよ。実家のほうの話を聞くと、おじいちゃんやおばあちゃんが床屋さんに行く時、何人か連れ立ってきてくれたりとか、そういうような話があるので、町中に来る用事を、町中のお店屋さんに努力して下さいっていうだけでなく、町中にそういう人たちが来れるような交通手段っていうのを、町で少し支援するといいいかなと思うんです。
瀬谷企画調整課長	いろいろ方法は各自治体苦労しているところなんですけれども、今の石川町にはバス路線が11路線。そのうち1路線は浅川町と共同で出しているということなんですけれども。これらをまずバス路線として維持していけるかどうかが課題になっていまして。その他バス路線以外にそれをまわそうとするとまた色々な経費が掛かってしまうということで。今、本当にこのバス路線も先程申しましたが、現在のところ昨年で3,000万円くらいの町の負担をしている。それで今年は3,600万円から4,000万円に近い部分を負担しなきゃならないというところで、今後、バス路線を維持していくのか、このままバスが人が乗らなくなれば町が負担するっていう。ですからそういう部分を全く今後…高校生なんかも今、石川町に小平とか古殿からくる

	人たちも2万円くらいの経費がかかっていますね。それを大変だっということで、またスクールバスとかそういったもので、そうすると路線バスが危うくなる。そういった総合的なところでの検討をして、あとは不振（不信？）的な問題と併せていかないと、なかなかこの問題難しいのと、まああのバス路線残したいっていうままでいくと、そこにお金をつぎ込まなきゃいけないという問題もありますので、そういうのを総合的に検討していくっていう……
山口委員	河川環境整備っていうと、河川っていうと、主な実施事業で河川景観の形成の推進というのがありますけれど、この計画の中でかなり話題になっている桜並木とまちづくりがうまくこう、みたいなことはできないんですか。全く別な形になるんですか計画の中に……
瀬谷企画調整課長	プロジェクトの中でさくらの郷づくりプロジェクトというものがありますので、その中で、さくらの問題については集中的にさくらの保全と活用、それからPRということですね。そういったものやっていくプロジェクトを明らかにしていくっていうように考えています。
山口委員	じゃあ、ここでは別に取り上げなくても……
瀬谷企画調整課長	観光の分野で若干とりあげていますので、プロジェクトと基本計画はリンクする部分は当然出てくるんですけども、プロジェクトの中ではかなり具体的なものでやっということで考えています。
渡辺副会長	土地利用の推進の件なんですけれども、土地利用の推進は、ここの安全・安心で快適なまち（生活・環境）よりもにぎわい活気のあるまち（産業）のほうに入れたほうがいいんじゃないかなと思います。すごく平面的な感じがするんですよね。この土地利用推進とにぎわいと活気あるまちづくりに入れることによって立体的なイメージが湧いてくるんじゃないかなと思います。 基本構想、基本計画、実施計画っていう中でやむを得ない造りかもわかんないんですけども、すごく平面的ですべて網羅しているとなんか感じて、その中にこう熱い何かを感じるもの。それはやむを得ないかもしれないですが。例えば、生産そして加工する、そしてサービスをするっていう立体的な流れの中での、位置付であれば生きた計画になると思うんですけども、それはなかなか網羅するって意味では難しいと思うんですけども、ただ土地利用とマッチするのはこっちの方に入れたほうがより立体的な感じがするのかなっていう気がします。
瀬谷企画調整課長	ちょっとここは検討させていただきます。
渡辺副会長	分断されちゃう気がします。ここに土地利用を持ってくる必要があるのかなっていう気がします。
瀬谷企画調整課長	特にポイントを絞ったのは、市街地の土地利用の、あと先程はバイパスの問題が出まし

	たけれども、バイパスが、今のバイパスは通過交通型なんで…
渡辺副会長	そうすると商業の振興と絡むってところも出てくるし。
瀬谷企画調整課長	バイパスの沿線の活用と、面積は少ないんですけども、そこと長久保地内の出口の部分と、その辺は土地利用を少し活用できるような形にしたいっていうのがひとつあるんです。ですから、先ほど商業の関係を言われましたけれども…
吉田委員	循環型社会の推進の分別ですね。その中に分別されていないっていう、また、なんつうんだろ。最初にもどってまた分別されていないっていうようなことなんですけど、今後これからどういった形で一般の住民の人に知らせていくのにはチラシとかなんかそういう講習会みたいのをやったりするんですか。
板橋町民生活課長	町民の皆さんにご協力をいただくということなんで、やはりチラシ等で問題にするっていうのが一番手っ取り早いのかとおもうのですが、まあ後は、年に１回、分別収集の仕方っていうことでカレンダーを出すんですが、このカレンダーも家庭には全戸配布しているんですが、実際、配布された時だけで、あとは見ていただいていないのかなと思っており ます。 ですから、何かもう少し見やすい場所に置けるような方法とか、今、ちょっと考えているところです。
吉田委員	なんかゴミの場所の管理人みたいなひとが地域から出ていますよね。なんかみんなすごく、それになると大変だっていう意識があって…
板橋町民生活課長	監視員の方は312名の方がいるんですけども、年に１回、説明会をやっているんですが、非常にお叱りを受けているのが現状です。っていうのはゴミを持ってくるのは、決まった時間じゃない訳です。 それを自分たちが見守っていかなくちゃならないとか、色々な問題があるもんですから、今後、分別収集をしていく中では、５年、１０年の間には徹底した何かを作らないと、いつでも自由に、例えば資源ごみの日が決まっても守らない町民が結構、多くなってきています。それがすべて私どもの方に電話で苦情がきています。ですから、説明会が何かを…施策を考えていかなくちゃならないかと思います。
渡辺副会長	袋に名前を書いて…。きちんとしないと良くならないでしょうね。
添田一文委員	水の問題なんですけれども、母畑ダムの水は旨くないとか、あんな水を飲んでいるようではしょうがないとか、そういう話をよく聞くんですけども、実際のところ、母畑湖の水っていうのは、まあ供給してるんだから大丈夫なんだろうけれども、その辺のところ、実際のところはどの程度の水質なのかというのをお聞きしたいんですけども。
熊田都市建設課長兼水道事業課長	確かに見た目は、アオコも出る年と出ない年とがあるんですが、去年も出

	まして、今年も盆上がりですかね、端のほうから出てきまして、現在も湖面全体が青くっ
	という形で出ています。
	じゃあ、アオコっていうのはどんなものかと言いますと、藻類が異常繁殖すると、アオ
	コっていうのは、手っ取り早く言えば浮き袋を持っているような形で、水の上に浮いてい
	るんですよ。ですから、なかなか下には来ないっていう性質なんです。どうしても上
	流には人家と家畜と山林とかと田圃、畑がありますよね。それに伴って窒素とリンの流入
	とがありますので、ダムに入る前の水は、普通の浄水場の水でいえば、沈殿ろ過して飲め
	る水なんです。溜まり水になるとどうしても藻類が発生しまして。藻類の中では一番問
	題になるのが、カビ臭とか泥臭とかっていうんですかね、そういう臭気を出す物質がある
	んです。それが入ってくると、嫌な臭いに感じるということでございます。
	あとダムについて問題なのは、どうしても溜まり水なものですから、水が酸素不足にな
	るんですよ。そうしますと入ってくる窒素、鉄、マンガン、有機物、アンモニアそうい
	ったものが酸化されないで残る形になります。ですからどうしてもそれらを酸化するため
	には、塩素をより多く使うようになります。
	今、健康に関する問題が大きくいわれているのがトリハロメタンという物質ですね。そ
	れは塩素の投入が多ければ多いほど多くできるっていう性質がありますので、心配すれば
	そういうことだと思います。
	ただ、水でいちばん美味しい水っていうのは、水が冷たくて臭いがしなければある程度
	水は美味しく飲めるんですが、どうしてもダム水とか河川水っていうのは、夏場になりま
	すと水温が25℃、26度になりますので、どうしても地下水に比べて美味しくないとい
	う形になります。
	ただ、ダム表面の見た目には非常に悪いので、こういう水を飲んでいいのかというこ
	とで、毎回、私共も言われます。ですが、現在の処理の中では…あのダム水っていうのはで
	すね。夏場っていうのは上の水温が高いんですね。川に入ってくる水は溜まっている水よ
	りも低い温度なものですから。水っていうのは4℃が比重が一番重いんです。ですから4℃
	より水温が高いと、比重が軽くなる。4℃より下がっても比重は軽くなります。
	ですから4℃近くの水が比重が一番重いんですが。夏場は入ってくる水のほうが冷たい
	んで、夏場は溜まった水の下の方を水が流れてくるということで、夏場っていうのは今の
	時点では、上に溜まっている水よりも川に入ってくる水がそのまま流れてきていますんで、
	意外と今の時期のほうが臭気は少ない。
	冬場になりますと逆に上層の水温が下がりますので、それが下がると4℃ぐらいになる
	と重くなりますので下に沈む。そうすると下の温かい水が上にあがってきますんで、今度
	は対流ということになります。
	現在は、夏場よりも冬場に若干、臭氣的には残るという状況です。現在は活性炭で臭気
	を除去しているんですが、活性炭はほとんどの物質を吸着しますので、農薬なんかも活性
	炭で吸着します。一番手っ取り早いのは、臭い関係については活性炭しかないんです。石
	川では年に2回、活性炭を再生というか焼きなおして、臭気には対応しているという
	状況です。
	ただ、今ダムに行ってみると真っ青に見えますけど、下から流れているのは茶色い水で
	す。それはさっき言ったとおり、この間、雨がちょっと降りましたので、川の濁ったもの
	が、ダムの下を流れて川にみんな流れている。見た目と現在ダムから流れてくる水とは全

	然、臭いが違いますんで、是非そういうことで理解していただきたいと思います。
	今も濁っていますんで、できれば行ってから、ダムから流れている茶色い水と上に溜ま
	っている水とを比べていただきたいと思います。
	ただ、見た目には非常に上がアオコで覆われていますので、これは私らではどうしよう
	もなくしております。
添田一文委員	個人的意見なんですけれども、そういう現状であれば、今、良い浄水器が普及しており
	まして、還元水（※注2）っていう水とかもあるんですけれども、そういうふうなものをあ
	るっていうことを啓蒙していったら、経済的負担はあるんでしょうけれども、家庭の蛇口で
	そういうものをつければ、家族の健康を守れるということを社会で考えてくれれば、そう
	いう還元水設置っていうか、補助金とまではならないんでしょうけれども、そういうことも
	町として啓蒙していかなければ町民の健康を守れないんじゃないでしょうか。
	（※注2: 還元水＝活性水素水のこと、活性水素水が活性酸素を消滅させるという論点から、
	良い効能を持つとして活性水素水を製造するとする装置が販売されることがあった。それ
	らの装置の宣伝では活性水素水について、料理が美味しくなる、柔らかくなる、肌がすべ
	すべになる、使うことで「万病を癒す魔法の水」などとしていた。いわゆるアルカリイオ
	ン水の生成機の宣伝トークとしてあるメーカーが使い始めたのが「活性水素水」がメディ
	アに現れた最初のものである。通信販売で宣伝されている還元水素生成装置は医療機器の
	カテゴリーには存在しない。それらの装置の中には、いわゆる疑似科学商品のひとつと考
	えられるものもある。また還元水精水器は安いもので10万円程度からある。）
山口委員	そんな危険な水を供給してないでしょう。
熊田都市建設課長兼水道事業課長	ただ家庭の浄水器ですと、浄水器っていうのは意外と活性炭が入っている
	のが多いんですよ。
	さっき申しましたように活性炭っていうのは塩素も何でも吸着しちゃうんですよ。
	ですから、逆に古くなった活性炭に細菌が増殖する可能性もあるということで、水道事
	業としてはなかなかそういうこともあるもんですから、お勧めするというところまではなか
	なかできないということになります。
板橋町民生活課長	ダムの水に関しましては、今、9月の定例議会が開催中なんですけど、一般質問でダムの
	アオコ問題はありました。これは担当が私共の方ということで…
	このアオコというのは、上流部に人家、家畜等がいればもう防ぎようがないんだそうで
	す。
	このアオコっていうのは、その生活排水からでる窒素、リンを食としてアオコが成長し
	ているんだそうです。一つの例を挙げていただいたんですけれども、摺上川ダムの上流に
	は人家が一切ないんだそうです。そこにはアオコは一切発生していないそうです。
	今、水がちょっと汚れていますんで、汚れているを通り越して泡が出ているんですね。
	ここ1週間とか。
	私共も今日、ダムに行って、ダムのほうの関係者とお話をしてきたんですが、今、台風
	シーズンに向けて水の放流を増やしている。ですから、ダム自体に溜まっている水はあま

	りへんいつじゃない、それが溜まっているんで若干泡が出ているっていうような状況です。
	飲料水として使っているのは今熊田課長が申したような水だということです。
添田京子委員	現在、山橋のほうに分別収集の、なんか施設がありますよね。それなので生ゴミの分別も見直しされたらいいんじゃないでしょうか。
板橋町民生活課長	生ゴミ処理機の補助金のことで良いでしょうか？
添田恭子委員	補助金じゃなくて、もうちょっと、こう、我が家のゴミは我が家で畑にまた戻してっていうか、そういう形でまた見直したらいいんじゃないかと思うんですが。
板橋町民生活課長	それも一つの方法なのかなと思いますけども、実際、私どもの課では、生ゴミ処理機の補助制度というのを予算化して持っているのですが、ほとんど利用がないんです。
	そういうことで最近、町では補助金の見直しがありまして、来年度からは補助金がゼロになります。
	ですから、家庭の生ゴミをたい肥化して家庭菜園に使うといったことは重要なことと思います。
添田京子委員	河川のクリーンアップ作戦とかやっていますよね。私の地区では年何回か堀さらいとか法面の草刈りとかをみんなで協力してやっているんですけど、他の地区でも共同でやれたらいいんじゃないんでしょうか。
板橋町民生活課長	それは各地区毎に積極的にやっています。
	町全体としてやるのはクリーンアップ作戦を年1回行っています。
添田京子委員	それをもっと何回もやったらいいと思うんですが。
板橋町民生活課長	各地区では何回もやっています。そのたびに袋などを町民生活課で無償配布ということでお配りしています。集めたゴミも回収するという形でやっております。
添田京子委員	私たちのほうでは、町に頼るということじゃなくて、自分たちでやっています。
板橋町民生活課長	私も山橋なんですけど、山橋はあまりこの辺が進んでいないんです。
	私もこの担当になって、少しさみしいなという実感です。
	沢田地区なんかは積極的にやっていますので。
添田京子委員	山橋でも随分違うんですね。私のところはずいぶんきれいにしています。
深谷委員	土地利用はね。土地利用で、地目で宅地が3.7%なんですね。石川町の人口で、この人口比からいく場合に、宅地面積っていうのは妥当な線なんですか。低いのか？そこらへんですね。

	さらにね。もうひとつはね。土地に中でね、各地区にゾーンがありますよね、つまり沢田地区なら農業振興地域とか、母畑ならなんだとか。
	確かにね、昔むかしは、やっぱり時代が変わるところに、ただ単にね、農業振興地域っていうだけではね、地域は発展しないと思う。
	やっぱり、複数的なゾーンじゃないとこれではやっていけないんじゃないかと、特に休耕地が増えているから、そういう休耕地を活かすようなゾーンのあり方を考えてもいいかなという気がするんですが、その意見があればお願いします。
瀬谷企画調整課長	宅地の割合は現状を抑えているということです。各自治体様々ですから、石川町ではこういう形に納まっているということだと思います。
	人口密度ということならば、町場は多いでしょうし、そうでないことは、それぞれの宅地も広いですし、もう少し密度は低くなることになると思います。
深谷委員	これはね。例えばこの団地とかね、そういう宅地はないんですかね。
瀬谷企画調整課長	あります。
深谷委員	ありますよね。ということはやっぱりその、将来人口を増やしていくということを考えた時には、やっぱりできるだけ宅地を増やす方向で行かないとね、ダメな気がするんですけども。
	その辺で、現在の宅地の割合はどうかという部分なんですネ。
	瀬谷企画調整課長 人口を増やす計画というのは、根本的なところで今回は人口は減っていくだろうというところがあるので、宅地を積極的に増やそうという計画は立てにくいところです。
深谷委員	結局ね。あの前にも言ったけれどね。その石川町から他に行くというのがありますよね、何人か。
	それは色々あるのね。例えば土地が安いとか、勤務に条件がいいとか、色々ありますね。しかし、やっぱり家を建てる場合には、どうしても土地の値段ですよね。安い土地があれば、やっぱりそこに落ち着くっていうのが、大体普通ですよ。
	そういうがあるので、将来、石川町に人口の歯止めをつくる、あるいは多少増やす、いうことを考えていった場合、宅地のあり方っていうのを考えていかないと、人口については解決できないという気がするんですけどね。
瀬谷企画調整課長	増やしていくっていう計画そのものが・・・
深谷委員	ないからね・・・
瀬谷企画調整課長	できるだけパイパスが通過交通型なんですけれど、双里地区のほうでそうした平面タッチの出来る、使える土地はできるだけそのようにできるような・・・

	今、都市建設課と議論しているところなんですけれども、
	そういうところはそういう方向をどう出せるか、バイパスの高さにもよるんですよね。
	高盛りで路面に対して土地が低いとなかなか利用できないもんですから、その辺のバイパスの計画なんかと併せて、ちょっと土地利用ができるかどうかというのを今検討しています。
	あとは、長久保地内の出口の部分で、どれだけの土地の使い方ができるかっていうことです。この２点は、市街地の中ではポイントにしています。
深谷委員	なるほどね。
瀬谷企画調整課長	それから、あとは、農業関係はやはり、農業関係の計画の中で遊休地の使い方とかをや
	っていくしかないのかなと。
	だた、沢田地区に今回10ha位のまとまった工業用地を取得するっていうことでは動いて
	いるのも事実ですけども、そこはそこで、やっぱりそれぞれの土地利用っていう形で新たに位置づけていくということになります。
深谷委員	例えばね。沢田で今、やってますね。まあ、ああいう団地をね、工業団地。
	面積としては、大したことないですよ。あれは私が見つとね、あんな場所に工場が来
	んのかなっていう感じすんですよ。
	やっぱりね、目抜きがいいところね、沢田にもあるんですから、そういうところにやれば
	いいんだけど、あんなところに作ったってだれが来んだろっていうね。思うんだけどね。
	その辺ね、地主が望んでんのか、あるいは誰かが、わかんないけども裏で糸を引いてん
	のか、わかんないけども、どういうことなんだか。
瀬谷企画調整課長	やはりひとつは道路がしっかりしているということですね。
深谷委員	ああ、それは当たり前のことだね。
瀬谷企画調整課長	あそこは沢田地内・・・。
	沢田というのは平らで条件がいいんですけども、非常に国営事業が入っていて開発に
	向いていないところというのがあるんですね。
	あとは沢田というのは排水の問題が非常にネックになっているんですね。
	そして、あそこの場合には排水の問題でも大きな投資をしなくても調整ができるという
	場所です。
	あとは、県道とかそういうのにも接続が良いいう条件で、農面道路が通っていますし。
深谷委員	そりゃそうですね。
瀬谷企画調整課長	そういう面では開発しやすい、まとまった土地というところだと思いますけれど。
深谷委員	藤沢なんかに来る人、いるんでしょうかね。

	それから町営住宅はね。269戸ですか、ありますね。これはどうなんですか。
	やっぱりまた人口についてなんだけど、町として269戸というのは適切なんですかね。
	特に古いのがあるからなんとかしなくちゃなんないと、そういう場合にはお金持ち出しになるわけですかね、これ。
	それで269戸っていうのは適切なのか、あるいは少なくて作れないのか、多いのか。
熊田都市建設課長兼水道事業課長	現在は前より住宅は減っているんですよ。
	宮城野住宅なんかは以前は70戸くらいあったんですが、現在は半分以下の数になっています。
	町全体としての公営住宅の数は、以前よりは減っています。母畑の団地なんかは3戸しかありません。古いところについては、出たところから取り壊しはしています。ですから全体的には減っているんですが、安い住宅を求める方がいますので、入居者が固定してしまい、出入りが少ないという状況です。
	20人位入居希望者があってもなかなかはいれないという状況になっています。
	そこで適正な数というのはなかなか判断できないんですが、現在、20人前後が毎年、申し込みしておりますので、そういうことから言えば、若干、足りないのかなということができるかもしれません。
深谷委員	今、空き家ないんですか。あるんですか、今は。
熊田都市建設課長兼水道事業課長	空き家はないです。
深谷委員	ないんですね。
	そうするとね、町にもねやっぱその個人的な、個人でやっているアパート。空いてるアパート。そういう全体を含めた場合にどうなんでしょうね。
熊田都市建設課長兼水道事業課長	そこまで掘んではいけません。最近、石川町の民間のアパートも随分増えているんです。
	新しいところにはかなり入っているんですが、値段もそれなりにするんですが。既存の古いアパートは空き家が多くなってきています。
	ですから町で、公営住宅を建てる計画もあるんですが、将来、古いアパートを町が借り上げて供給するということも考えることは可能かと思います。
深谷委員	最後はバスなんです。バスの話、出ましたけどね。私はね、この3,600万のね、負担、助成金を出してね、これは仕方ないんでしょうけれども、思いきったね、やっぱり発想の転換があっていいんじゃないかと思うんです。
	確かに今、見てるとね、石川白河線なんか見てるとね、大体、あの高校生なんです。これはどうしても必要ですね。
	一般の人なんか乗るのはほとんどないですね。私も時々白河行くときにはバス使っているんですけども、ほとんどないですね。私一人ぐらいしか乗っていない。
	だから、やっぱり、この辺で、もし別な案があれば、思い切ってこの路線のね、バスは

	無くてもいいと、いう決断があってもいいような気がするんですけども。
	ここはやっぱり必要だから残すと、ここは要らないと、その代り代替えとして、先ほど出ましたとおり、タクシーを利用するとか、あるいは町自体ではね、何か考えるとか。そういうことがあってもいいと思うんですけどもいかがでしょうかね、その辺。
瀬谷企画調整課長	バス路線の場合には、石川町は特にそうなんですけれども、石川町だけで考えることができないんです。複数の市町村を運行しますので・・・
深谷委員	そうなんですよ。
瀬谷企画調整課長	このところそういった協議もありますし、高校生のスクールバスっていうのもありますし、将来出てくだろう石川町の学校の統合の問題での通学の問題があります。
	スクールバスでやるのか、既存の路線バスでやるのか、そういったものをもう少し総合的検討していずれそういう決断をしなくてはならない時が来ると思っておりますので、現時点では、路線バスの路線を残したいと考えています。
	その間、いろんな手法を考えていかなければならないと思っています。
深谷委員	石川町は3,600万だけど、他の町村も当然払っているんでしょうね。
	いくらぐらい払ってんの。
添田企画係長	それぞれの自治体で相当の負担にはなっていてまして、バスのあり方というのをそれぞれの自治体で議論をしています。
	近隣で申しますと、中島村さんはバスは無くしました。
	デマンドという新たな方式をやっていますが、お話を聞くとバスの補助金よりも多額の経費がかかっているという話を聞きます。
	浅川町さんも今回、1路線減らしたんですが、古殿町さん、平田村さんでは、バスに変わる代替措置をすると今以上の経費がかかってしまうので、生活路線バスでそのまま何とか行きたいというようなお話があるんです。
	同じく、白河、須賀川もあるんですが、こちらも路線バスは維持していきたい、ということなんです。
	そうすると、石川はもうひとつ大きなポイントがありまして、高校が二つあるということなんです。高校が二つあるということは、これまでの委員会でもお話が出ていますが、石川町にとってこの二つの高校の意義は非常に大きい、この高校に通うためにこの路線バスを活用されて、通学されているお子さんが多数いらっしゃるということで、石川町の町だけの判断だけで路線のことを考えられないっていう状況もあります。
	ピーク時には石川町には21路線がありました。それを減便さらには廃止、それで現在の12というところまで落としてきております。
	しかしながら、減便・廃止をしてもやはりどうしても、乗っていただけないっていう状況の中では、逆に負担がどんどん大きくなっていくっていう状況があって、これは私たちごっこになってしまうんですが、福島交通さんでもとことん経営上の企業努力をしてやっているんですが、そこに追いつかない。自治体に頼らざるを得ないという現況の中では、

[illegible]